

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	原価計算論A (Cost Accounting A)		
ナンバリングコード	E20604	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 標準レベル 会計ファイナンス
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	選択: 経営経済学部 コース選択必修: 情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E043401	クラス名	-
担当教員名	工藤 順一		
履修上の注意、履修条件	受講にあたって前提条件となる知識はとくにありません。授業は、できるだけ毎回出席してください(欠席すると講義がまったく理解できなくなる恐れがあります)。電卓も持参してください。授業時の座席はこちらで指定します。なお、前のほうを希望される方は、前3列は開けていますので自由にお願いします。		
教科書	TAC簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記2級工業簿記』TAC出版		
参考文献及び指定図書	随時紹介します。		
関連科目	簿記入門、管理会計論、監査論 原価計算論B		

○基本情報	
授業の目的	大学を卒業して就職しますと、どこの職場でも経費の削減を求められます。売上はなかなか伸ばせませんが、経費は努力次第では節約できます。その経費を削減するには、まず経費(原価を含む)を知ることです。この授業では、皆さんと一緒にモノの原価とは何かを学んでいきたいと思ひます。「原価」とはどのようなものであるのか、「原価」を構成する要素にはどのようなものがあり、どのようにして原価を計算するのか。そして、いつも、原価を下げるにはどうしたらよいかを考える講義にしたいと考えています。授業は基礎的な知識の習得だけでなく、DVD等を利用しながら、地域が抱える課題等も紹介したいと思ひます。それらを通して、問題解決能力の育成を期待します。
授業の概要	授業は、テキスト、レジュメを中心に進めます。また、次回の授業の最初に、復習の意味で、前回講義の練習問題を解いていただく形で進めていきます。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 「PBL(課題解決型学習)」
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目
実務経験のある教員による授業科目	工藤順一氏は、大分県内の100社以上の大分県の経営革新計画の事業計画書作成を支援してきました。また、シニアIMとして多くの企業の創業支援実績あり。多くの企業の事業計画書作成等に携わってきた経験を、皆さんの専門的・実践的な知識の習得に生かしたいと考えます。授業では、原価計算の一つ一つの問題を説明する中で、理論と実践との共通点や異なる点を説明したいと考えます。これにより、学生の皆さんが、原価計算を理論的かつ実践的に理解できることと思ひます。

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	塗装業を承継した若い人から「お客様に見積もりを提出したいがどうしたらいいかわからない」という相談がありましたが、原価がわからないと、見積もりもできません。将来に備えて、まず原価へ関心を持ちましょう。	10点		10点
【知識・理解】	個別原価とは何か、どうやって計算するのか、といった基礎的な知識を身につけ、理解しましょう。そのためには、基礎的な用語に慣れ、理解することです。	20点		
【技能・表現・コミュニケーション】	基礎知識を元に、練習問題を解いていきます。また、見積書を作成しましょう。種々の図や公式を理解し、使えるようにしましょう。	20点	10点	
【思考・判断・創造】	原価計算関連のDVDや新聞記事を紹介します。皆さんは、なぜそうなるかをよく考えて、解法を判断してください。できれば日商簿記検定2級の工業簿記に挑戦しましょう。	10点	10点	10点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
授業中に出す課題レポート等により授業への取り組み姿勢や意欲を評価します。レポートは、テーマに沿って、自分の言葉で書いてください。量と質の両面から評価します。提出していただいたレポートは、次の授業の際に、講評や追加コメントをいたします。期末試験により基礎的な知識の習得を評価します。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル: 達成目標を満たしている。Aレベル: ほぼ満たしている。Bレベル: なんとか満たしている。Cレベル: 一部分満たしている。なお、期末試験は、授業の中で学んだ内容について、幅広く出す予定ですので、14回目の授業の中で、期末試験についても説明しますので、必ず出席してください。

○その他
(この欄は空欄です)

## 2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	原価計算論A (Cost Accounting A)	授業コード	E043401
	担当教員	工藤 順一		
<b>学修内容</b>				
<b>1. 原価計算とは何か</b> 工業簿記及び原価計算の基礎について商業簿記と比較しながら勉強していきます。				
	<b>予習</b>	テキストを購入して、最初の導入の部分を読んでおきましょう。		約2時間
	<b>復習</b>	制度会計と管理会計の違いについて復習しておきましょう。		約2時間
<b>2. 材料費の材料の購入原価について</b> 原価の3要素のうち、材料費について、その分類・購入原価について学習していきます。材料は目に見えるものです。その材料の購入原価に、どのような経費を含めるかを学びます。				
	<b>予習</b>	あなたの周りにあるいろいろなものの材料は何かを考えてきましょう。		約2時間
	<b>復習</b>	材料の購入原価の中には、どのような経費がふくまれるのかを復習の中で理解しておきましょう。		約2時間
<b>3. 材料費の計算</b> 材料費とは、製品を製造するにあたり消費した物品の原価である。材料費は原価計算における製造原価の一部を占め、製造原価は材料費、労務費、経費で構成される。材料費は材料の取得原価であり、仕入と同様、付帯費用も含めた金額が材料費となる。材料の消費数量について、継続記録法・棚卸計算法を学び、材料の消費単価については平均法・先入先出法等について学びます。				
	<b>予習</b>	原価は単価と数量の積です。あなたの周りのモノの単価を調べてみましょう。		約2時間
	<b>復習</b>	先入れ先出し法と平均法の違いがどこにあるか復習しておきましょう。		約2時間
<b>4. 労務費の分類</b> 次に、原価3要素のうち、労務費について、その分類及び労務費の計算について学習をしていきます。労務費とは、ヒト(労働力)の消費によって生ずる原価をいいます。労務費は製品との関連による分類により直接労務費と間接労務費とに分類することができ、直接労務費と間接労務費はさらに、労働形態などにより細分することができます。				
	<b>予習</b>	労務費の中には直接労務費と間接労務費があります。間接とは何を指すのか予習してみましょう。		約2時間
	<b>復習</b>	昼休みや休憩時間は原価に入るのかどうか、復習して確認しておきましょう。		約2時間
<b>5. 賃金の支払い額と消費額について</b> ここでは、給与計算期間と原価計算期間のズレや未払い賃金、直接工の消費賃金の計算について学びます。労務費の計算のうち、予定消費賃率を用いる計算について学びます。				
	<b>予習</b>	会計においては、期間のズレが良く生じますが、期間のズレとは何かを調べておきましょう。		約2時間
	<b>復習</b>	予定消費をなぜ使うのかについて、その理由を復習の中で確認しておきましょう。		約2時間
<b>6. 経費の分類と消費額の計算について</b> 原価の3要素の最後は、経費についてです。経費とは、材料費及び労務費以外の原価要素をいいます。経費は製品との関連による分類により直接経費と間接経費とに分類することができ、直接経費と間接経費はさらに、発生形態などにより細分することができますここでは経費の分類、経費の4つの消費額の計算方法のうち、支払経費について学びます。				
	<b>予習</b>	支払経費とはどんな経費なのか、日々の生活の中で見てください。		約2時間
	<b>復習</b>	減価償却費の定義について再度復習しておきましょう。		約2時間
<b>7. 経費の分類と消費額の計算について (2)</b> 経費とは、材料費・労務費以外の原価要素をいい、減価償却費や棚卸減耗費、賃借料、修繕料、電力料、旅費交通費等が含まれます。ここでは経費の4つの消費額の計算方法のうち、残りの3つについて学びます。				
	<b>予習</b>	測定経費とはどのような経費をいうのか、あなたの身の回りから探してみてください(水道光熱費等)		約2時間
	<b>復習</b>	棚卸減耗費とは、どのような費用なのか、練習問題を解きながら確認して下さい。		約2時間
<b>8. 個別原価計算</b> 個別原価計算とは何か、製造間接費の賦課・配賦について配賦基準等を学習し、製品への実際配賦を学習していきます。個別原価計算とは、1つの製品ごとに原価を集計する原価計算手法の一つである。主にこの手法は、船舶や特注の機械など、製造指図書をもとに個別に製造する受注生産で採用される。大量生産には総合原価計算が適用される。				
	<b>予習</b>	製造間接費を製品に配賦する方法について、割り勘をもとに予想してみましょう。		約2時間
	<b>復習</b>	経費を一度製造間接費に集め、その後仕掛品に配賦する方法について、復習しておきましょう。		約2時間

○授業計画	科目名	原価計算論A (Cost Accounting A)	授業コード	E043401
	担当教員	工藤 順一		
<b>学修内容</b>				
<b>9. 製造間接費の実際配賦</b> 製造間接費を各製造指図書(各製品)へ配賦する方法には、製造間接費の実際発生額を配賦する方法(実際配賦)のほか、予定配賦という方法があります。実際に発生した金額を配賦する実際配賦には2つの問題点があります。1. 実際に発生した金額を配賦するため、各製品の原価の計算が遅れてしまう。2. 実際発生額や操業度は毎月変動するため、実際発生額を各製品へ配賦するための実際配賦率も毎月変化します。こうした実際配賦の問題点を学習します。				
	<b>予習</b>	材料費、労務費、経費における製造間接費とは、何かをまとめて来てください。		約2時間
	<b>復習</b>	実際配賦の問題点を2つあげてその理由をまとめておきましょう。		約2時間
<b>10. 製造間接費の配賦差異・差異分析</b> 製造間接費の予定配賦とは、あらかじめ製造間接費の金額と操業度を予測して配賦率を計算し、この配賦率(予定配賦率)にもとづいて製造間接費の配賦を行う方法をいい、実際配賦の欠点を補うことができます。それは、①計算が迅速に行えることであり、②単位原価が安定することです。予定配賦の場合、同一の配賦率によって製造間接費を配賦するので、その期の操業度によって製品の単位原価が大きく変動するということはありません。				
	<b>予習</b>	製造間接費の実際配賦の問題点を考えてみましょう。		約2時間
	<b>復習</b>	予算差異や操業度差異について、練習問題を解きながら確認しておきましょう。		約2時間
<b>11. 部門別原価計算(1) 直接配賦法</b> 費目別原価計算で把握された原価要素を原価部門別に分類、集計する手続で、原価計算における第2次の計算段階である。その目的は、(1) 合理的な製品原価の計算、(2) 原価管理である。(1) の製品原価の計算のために製造直接費は原価計算表へ直課できるが、製造間接費は一定の配賦基準を用いて配賦しなければならない。				
	<b>予習</b>	補助部門の中にはどのような部門が含まれるのか、調べてきてください。		約2時間
	<b>復習</b>	補助部門の一次集計の方法を練習問題を解きながら確認しましょう。		約2時間
<b>12. 部門別原価計算 (2) 相互配賦法</b> 相互配賦法とは、まず補助部門費を製造部門だけでなく補助部門へも配賦し、次に他の補助部門から配賦された補助部門費を製造部門のみに配賦する方法です。今回は簡単な問題を使って相互配賦法の計算方法を説明していきます。製造間接費を部門個別費と部門共通費に分け、それらを各部門に賦課(配賦)しますが、そのうち第1次集計を前回学んだので、今回は2次集計についての学習します。				
	<b>予習</b>	製造間接費を2回配布計算する理由について事前に調べてきましょう。		約2時間
	<b>復習</b>	2次配賦の仕方について、練習問題を解くことで理解を深めましょう。		約2時間
<b>13. 個別原価計算の総復習(1)</b> 練習問題を解きながら、これまでの学習の総復習をします。材料費・労務費の分類と消費額の計算を予定配布等を使いながら行います。製造間接費について、配布差異の分析を行いながら、部門別個別原価計算問題を解いていきます。				
	<b>予習</b>	1回から11回までの授業のなかで分かりにくい点をピックアップしてきてください。		約2時間
	<b>復習</b>	小テストを行いますので、解けなかった問題については再度復習しましょう。		約2時間
<b>14. 個別原価計算の総復習(2)</b> 練習問題を解きながら、これまでの学習の総復習をします。製造間接費について、配布差異の分析を行いながら、部門別個別原価計算問題を解いていきます。				
	<b>予習</b>	これまでの授業の中で解けなかった問題を抽出してきてください。		約2時間
	<b>復習</b>	練習問題の中で解けなかった問題を再復習しましょう。		約2時間
<b>15. 個別原価計算の総復習(3)</b> 練習問題を解きながら、これまでの学習の総復習をします。部門別計算の問題を解いていきます。期末試験の試験範囲や試験問題の出し方等について説明します。				
	<b>予習</b>	これまでの授業の中で解けなかった問題を抽出してきてください。		約2時間
	<b>復習</b>	練習問題の中で解けなかった問題を再復習しましょう。		約2時間
<b>16. 期末試験</b> すべての講義に関して総復習の意味でのテストを行います。計算機の持ち込みはOKです。				
	<b>予習</b>	これまでの授業の中で解けなかった問題を抽出してきてください。		約2時間
	<b>復習</b>	期末試験問題の中で解けなかった問題を再復習しましょう。		約2時間